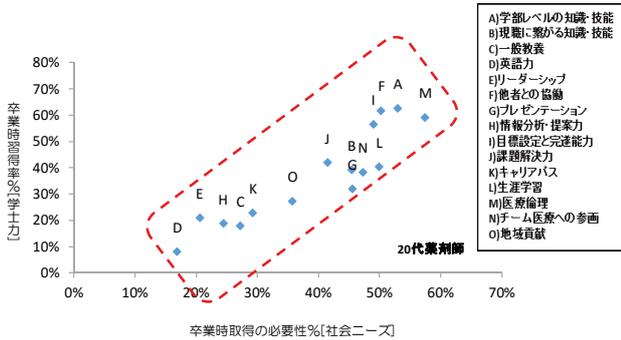


＜実績・成果＞

● 学修成果のアセスメント

卒業生調査により学修成果の獲得実感を評価。6年制薬学教育導入の結果、薬剤師職については従来以上に社会ニーズに即した教育が提供されている可能性が示された。



● 外国語学修プログラムの新規開設と多読プログラムの開始

卒業生調査により教育プログラムの課題が浮き彫りになった。特に外国語学習の役立ち度が低い可能性が示されたことから、新たに外国語学修プログラムと多読プログラムを導入した。

【今後の取組の計画】

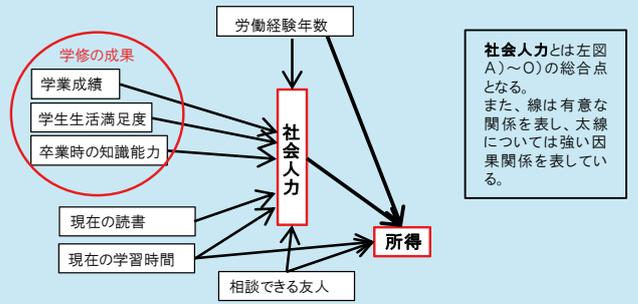
- 2017年度に実施した卒業生調査及び各種調査の分析推進とステークホルダーへのフィードバック
- 卒業生調査とアセスメントテスト(PROG)結果の比較・検討
- 卒業論文研究へのルーブリック評価実施及び電子ポートフォリオシステムを利用したディプロマ・サプリメントの作成と発行
- 学内外における積極的な情報発信
- 教職合同による専門職(IRer等)育成のための継続的なSD活動

【本取組における成果と社会へのインパクト】

- 本学が実施した卒業生調査は、日本の私立大学が実施したものとしては最大規模である。その調査・分析のフレームワークは、日本の高等教育機関における一つの先進的な事例になり、また、薬学・生命科学領域における大学教育への投資効果やその効用を明らかにすることはステークホルダーに対しての説明責任を果たすことになる。

調査分析例)学修歴が所得を向上させるメカニズム

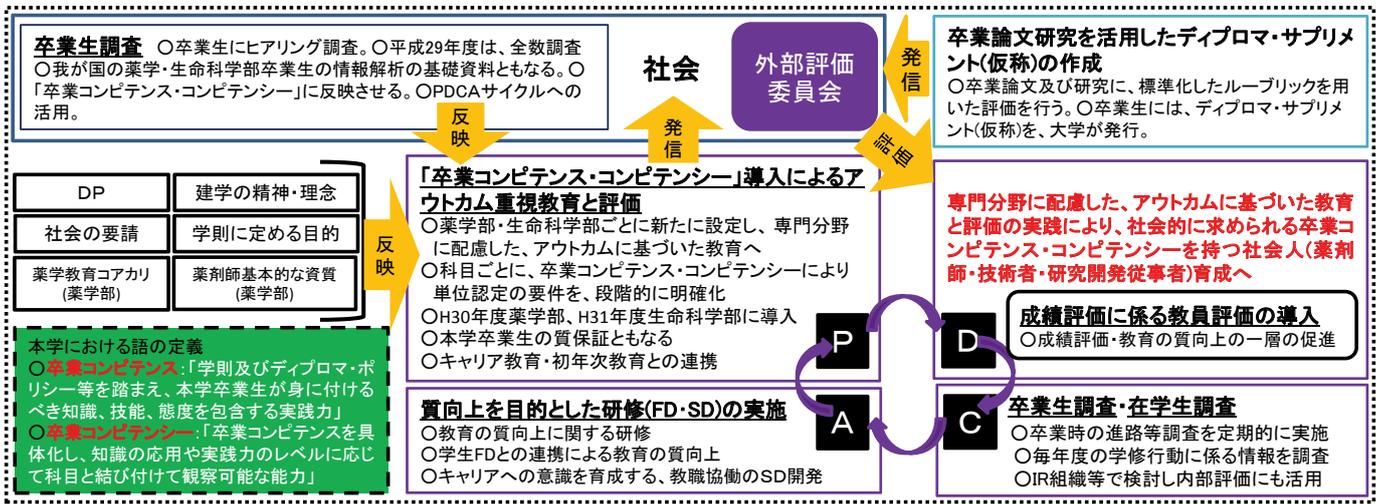
大学での学習の成果は、社会人力を向上させる要因になり、この社会人力がキャリアを豊かにするという間接効果をもっていることが明らかになった。



- 理系の卒業論文研究は、専門知識の深い理解のみならず、教養的知識から社会的スキルまで、幅の広い複合的な効用をもたらしている。最終学年の集大成である卒業論文研究の達成状況を可視化し、社会へ提示することは、質保証に資するものである。
- 卒業コンピテンス・コンピテンシー、卒業論文研究のルーブリック評価とそのフィードバック手法は、理系教育の学修成果を体系化・視覚化する取組であり、他大学等への波及が見込まれる取組である。

【本取組の質を保証する仕組み】

AP運営委員会及び実行委員会にて内部評価を行った上で、事業年度毎に、大学教育に関連する多様なステークホルダー(有識者、企業、自治体、高等学校教諭、OB・OG)で構成された外部評価委員会により評価を実施し、事業改善等を行っている。



具体的な実施計画における指標	2016年度 (起点)	2017年度 (実績)	2019年度 (目標)
卒業生追跡調査の実施率(年度別卒業生)	95.6%	97.3%	99.0%
卒業論文研究のルーブリック評価実施率	7.6%	25.1%	100.0%
進路決定の割合	99.5%	99.5%	99.0%
事業計画に参画する教員の割合	12.1%	16.3%	25.0%
質保証に関するFD・SDの参加率	87.9%	87.5%	90.0%